

平成29年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
31202	国際理解 Understanding International Affairs	中村 洋樹	基礎	2	選択	1・2年 後期
科目の概要						
<p>本科目は、日本国内あるいは愛知県内における多文化共生に関わる問題(例えば、外国籍の市民とのコミュニケーションの問題、外国人労働者をめぐる問題、ヘイトスピーチの問題など)を考察することを通して、多文化共生社会を構成する一員としての基本的な考え方(価値観の多様性を理解する、異なる価値観への寛容さなど)と課題を発見し解決する能力を身に付けることを目的とする。具体的には、①担当者が提示する多文化共生に関する新聞記事の読み取り及びグループ討議、②愛知県内(あるいは日本)における多文化共生に関する問題点・現状をグループで調査し、その解決方法を提案するプレゼンテーションを行う。</p>						
学修内容			到達目標			
<p>① 日本国内あるいは愛知県内の国際理解・多文化共生に関する問題点(例えば、コミュニケーションの問題など)とその現状や私達の生活への影響を考察する。</p> <p>② 愛知県内の国際理解・多文化共生に関する問題点をグループで調査し、その解決方法を提案する。</p> <p>③ 新聞記事の読み方や活用方法を理解する。</p>			<p>① 多文化共生社会の一員としての基本的な考え方(価値観の多様性を理解する、異なる価値観への寛容さなど)や課題を発見する力を身に付けることが出来る。</p> <p>② 様々な情報やそれに対する自らの考えを整理し表現するなど、説得力のある発表(提案)が出来る。</p> <p>③ 新聞記事を手がかりにして、自ら課題を発見したり、その解決方法を考えたりすることが出来るようになる。</p>			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例				
前に踏み出す力	主体性	<ul style="list-style-type: none"> ・授業以外の時間を使い、自分で課題について調べたことを整理しまとめることが出来る。 ・グループ討議で自らの意見を積極的に発言することが出来る。 				
	働きかけ力					
	実行力	<ul style="list-style-type: none"> ・他者にもわかりやすいプレゼンテーションを行うために、発表内容や発表方法を工夫し改善していくなど、グループ内で妥協することなく準備を進めることが出来る。 				
考え抜く力	課題発見力	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事の読み解きを通して、国際理解や多文化共生に関して何が本質的な課題(問題)なのかを見極める(小レポートに書いたりコメントしたりする)ことが出来る。 				
	計画力					
	創造力	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解や多文化共生に関わる課題(問題)について様々な角度から解決策を考える(「私ならこう考える」、「このようにした方が良い」と発想する)ことが出来る。 ・新聞記事の読み解きやそれに基づくグループ討議において、「なぜ」「どうして」という疑問を持ちながら取り組むことが出来る。 				
チームで働く力	発信力	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の仕方(声の大きさやスピードなど)や発表資料を工夫し(図や表を使用する、要点を簡潔にまとめるなど)、他者にもわかりやすい発表を行うことが出来る。 				
	傾聴力	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの発表内容の確認や質問を行いながら、その内容を正確に理解することが出来る。その上で、自らの考えを述べる事が出来る。 				
	柔軟性					
	状況把握力					
	規律性	<ul style="list-style-type: none"> ・私語や携帯電話の使用など講義やグループ討議に支障をきたす行動をせず、また提出物(小レポート)を忘れることなく授業に臨むことが出来る。 				
	ストレスコントロール力					
テキスト及び参考文献						
<p>テキスト: 使用しない。プリント(資料)を適宜配布する。</p> <p>参考文献: 齋藤孝著(2016)『新聞力:できる人はこう読んでいる』筑摩書房, 842 円。</p>						
他科目との関連、資格との関連						
<p>他科目との関連:なし</p> <p>資格との関連:なし</p>						
学修上の助言			受講生とのルール			
<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題やプレゼンテーション課題(新聞記事の収集、プレゼンテーションの準備など)に取り組むにあたり、学内や県内の図書館を有効に活用すること。 ・ニュースや新聞に日頃から接すること(習慣づけることが望ましい)。インターネット上の情報に頼り過ぎないこと。 			<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語、携帯電話(スマホ)の使用、飲食、その他授業と関係のないこと(例えば、他の授業の課題をするなど)は厳禁とする。 ・グループ単位で活動をするが多いため、欠席はなるべくしないこと。グループで協力して取り組むこと。 			

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
筆記試験				
小テスト				
レポート	35	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> ・課題①「国際理解、多文化共生に関係すると思われる新聞記事を1点切り抜き、その概要と自らの考えをまとめる」(第3週に提出, 5点) ・課題②「授業で扱ったテーマに関係する新聞記事を少なくとも1点切り抜き、その概要と自らの考えをまとめる」(第5, 7, 11週に提出, 各10点) ・各課題とも500字～800字程度を予定。課題②については、新聞記事の内容を正しく理解し、自らの考えを書けていけば7～10点、感想を書いている場合は4～6点、内容理解が不十分あるいは概要のみの場合は1～3点。 ・1年以上前の記事については、各新聞社の縮刷版を活用して調べる。
		②		
		③	✓	
成果発表 (口頭・実技)	50	①		<ul style="list-style-type: none"> ・課題「外国籍の市民から見た愛知県(あるいは日本社会)の問題点を1つ取り上げ、その現状を調べるとともに、その問題点を解決する方法を提案する」 ・グループ単位で取り組み、レジュメ(発表資料)を作成した上で発表する。レジュメの作成方法や発表方法については授業時に指示する。 ・中間発表と最終発表の2回に分けて実施する。中間発表では、主に問題点を中心に発表する。最終発表では、中間発表で指摘した問題点の解決方法(既に取り組みされている方法を再検討しても良い)を提案する。 ・中間発表は、①情報の信頼度(7点)、②レジュメの工夫(3点)の10点満点で評価する。最終発表は、①情報の信頼度(15点)、②提案の具体性・実現可能性(15点)、③レジュメの工夫(10点)の40点満点で評価する。 ・調査する情報は主に新聞記事とし、その上で書籍を読んだり、実地調査を行ったりしたグループを高く評価する。なおインターネット上の情報だけであれば0点とする。出典を明記していない場合や剽窃があった場合も0点とする。
		②	✓	
		③	✓	
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	15	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> (主体性) ・グループ討議での発言内容やコメントシートの書きぶりに基づき評価する。 (実行力) ・グループ活動時の様子(レジュメを工夫しようとしているか、担当者からの助言や指摘を受けて改善しようとしているか、など)に基づき評価する。 (課題発見力) ・小レポートの記述やコメントシートの書きぶりに基づき評価する。評価は「レポート」の点数に反映される。 (創造力) ・グループ討議での発言内容やコメントシートの書きぶりに基づき評価する。 (発信力) ・プレゼンテーションの中間発表及び最終発表での発表内容と発表方法に基づき評価する。評価は「成果発表」の点数に反映される。 (傾聴力) ・プレゼンテーションに対する質疑の内容やコメントシートの書きぶりに基づき評価する。ただ感想を書くのではなく、自らの考えを述べるのが望ましい。 (規律性) ・1回の授業でルール違反を2回指摘されれば、その回は欠席扱いとする。
		②	✓	
		③	✓	
その他				
総合評価 割合	100			<ul style="list-style-type: none"> ・なお、6回以上欠席した場合は単位認定の対象外となるため注意すること(無論、ルール違反による欠席扱いもこのなかに含まれるので注意すること)。

【到達目標の基準】

到達レベル A(優)の基準	到達レベル B(良)の基準
<ul style="list-style-type: none">・国際理解や多文化共生に関連する複数の新聞社の新聞記事に目を通しており、その内容を正しく理解すると共に、自らの考えをわかりやすくまとめることが出来る。・国際理解や多文化共生に関する愛知県内の問題点について、具体性や実現可能性が高い複数(2点以上)の解決方法を提案出来ている。また、ただ問題点や解決方法を列挙・羅列するのではなく、なぜそれが問題なのか、なぜその方法が有効なのかを自分達で説明出来る。・A(優)の基準に加え、他者からの指摘を受け止め、よりよい考えや解決方法を示すことが出来れば S(秀)とする。	<ul style="list-style-type: none">・国際理解や多文化共生に関連する新聞記事(少なくとも一社)に目を通しており、その内容を正しく理解している。新聞記事についての感想ではなく、自らの考え(例えば私ならこうするなど)を書くことが出来る。・国際理解や多文化共生に関する愛知県内の問題点について、具体性や実現可能性が高い解決方法を少なくとも1点提案出来ている。担当者や他のグループの学生から質問されれば問題点や解決方法について具体的に説明出来る。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	ガイダンス(授業の目的や進め方・課題について理解する), グループ編成及びグループのメンバーについての相互理解を深めるためのワークショップ。	講義とグループ討議。	・授業の進め方や課題についてメモをしたり下線を引いたりするなどして説明を聞くことができる。 ・他の学生の迷惑にならないよう, 私語をすることなくグループ活動に取り組むことができる。	(予習)シラバスを熟読の上, 授業の内容を理解しておく。不明な点があれば質問を考えておく。国際理解についての身近な経験を話せるようにしておく。	180	規律性
2週 /	新聞記事の読み方や選び方を理解する。新聞記事についての自らの考え方をどうまとめれば良いかを理解する。	講義とグループ討議。	・新聞記事の内容をただ羅列・列挙するのではなく, 自分の言葉でまとめることができる。	(予習)国際理解に関連すると思われる新聞記事を複数(2点以上)収集する。	180	主体性
3週 /	各自が収集した国際理解・多文化共生に関する新聞記事を交流する。収集した新聞記事を踏まえて, グループによるプレゼンテーションのテーマを設定し, 調査計画を立てる。	講義と小レポートに基づくグループ討議。	・指定された様式にしたがって小レポートを執筆し, 新聞記事の概要と感想を述べるができる。 ・グループで話し合い, テーマを設定出来る。	(予習)第2週の授業内容を踏まえ, 国際理解に関連すると思われる新聞記事を探し, 小レポートを執筆する。	180	主体性 規律性
4週 /	日本国内の内向き志向と国際理解(1):TV 番組やインターネット上における国際的視野を欠いた日本礼賛の傾向について, その現状と問題点を考察する。	講義と新聞記事に基づくグループ討議。	・国際的視野を欠く内向き志向が国際理解や多文化共生の妨げになり得ることを新聞記事に基づいて説明することができる。	(予習)グループによるプレゼンテーションのテーマに関連する新聞記事を収集しておく。	180	課題発見力
5週 /	日本国内の内向き志向と国際理解(2):各自が収集した日本国内の内向き志向に関係する新聞記事をもとに, どのような問題があるのかを理解し, その上でこの問題を解決するための方法を考える。	講義と小レポートに基づくグループ討議。	・指定された様式にしたがって小レポートを執筆し, 新聞記事の概要と感想を述べるができる。 ・内向き志向にならぬよう自分達にも出来ることを1つは考えることができる。	(予習)第4週の授業内容を踏まえ, 日本国内の内向き志向に関連すると思われる新聞記事を探し, 小レポートを執筆する。	180	創造力 規律性
6週 /	ヘイトスピーチ問題と国際理解(1):国内外におけるヘイトスピーチ問題の現状, その背景, ヘイトスピーチを無くすための取り組みについて考察する。	講義と新聞記事に基づくグループ討議。	・ヘイトスピーチの問題について, その対象とされている人達や被害を受けている人達の立場に立って問題を考察出来る。	(予習)グループによるプレゼンテーションのテーマに関連する新聞記事を収集しておく。	180	課題発見力
7週 /	ヘイトスピーチ問題と国際理解(2):各自が収集したヘイトスピーチ問題に関係する新聞記事をもとに, どのような問題があるのかを理解し, その上でこの問題を解決するための方法を考える。	講義と小レポートに基づくグループ討議。	・指定された様式にしたがって小レポートを執筆し, 新聞記事の概要と感想を述べるができる。 ・ヘイトスピーチを無くす方法を1つは考えることができる。	(予習)第6週の授業内容を踏まえ, ヘイトスピーチ問題に関連すると思われる新聞記事を探し, 小レポートを執筆する。	180	創造力 規律性
8週 /	グループによるプレゼンテーションの中間発表(1)	グループ発表と質疑応答。質疑応答を踏まえた振り返り。	・指定された様式にしたがってレジュメを作成し, 発表することができる。質問に答えることができる。 ・各グループの発表に対し, コメントシートに3行以上の感想や疑問などを書くことができる。	(予習)プレゼンテーションに必要なレジュメを作成しておく。質疑を想定した打ち合わせをしておく。 (復習)質疑応答を踏まえ今後の進め方を再検討する。	180	発信力 傾聴力

能力名:主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	グループによるプレゼンテーションの中間発表(2)	グループ発表と質疑応答。質疑応答を踏まえた振り返り。	・指定された様式にしたがってレジユメを作成し、発表することが出来る。質問に答えることが出来る。 ・各グループの発表に対し、コメントシートに3行以上の感想や疑問などを書くことが出来る。	(予習)プレゼンテーションに必要なレジユメを作成しておく。質疑を想定した打ち合わせしておく。 (復習)質疑応答を踏まえ今後の進め方を再検討する。	180	発信力 傾聴力
10週 /	外国人労働者をめぐる問題と国際理解(1):日本国内における外国人労働者をめぐる問題について、特に労働環境や過労死の問題及び日本人労働者と比べた時の違いやその背景について考察する。	講義と新聞記事に基づくグループ討議。	・外国人労働者を「いかに使うか」という視点ではなく、外国人労働者の立場に立ってその現状を共感的に理解し、問題点を考察することが出来る。	(予習)評価のポイントを満たせるようプレゼンテーションの準備(レジユメの作成、追加調査、提案の実現可能性の検討、など)を行う。	180	課題発見力
11週 /	外国人労働者をめぐる問題と国際理解(2):各自が収集した外国人労働者をめぐる問題に関する新聞記事をもとに、どのような問題があるのかを理解し、その上でこの問題を解決するための方法を考える。	講義と小レポートに基づくグループ討議。	・指定された様式にしたがって小レポートを執筆し、新聞記事の概要と感想を述べる事が出来る。 ・外国人労働者と協働するための方法を1つは考えることが出来る。	(予習)第10週の授業内容を踏まえ、外国人労働者をめぐる問題に関連すると思われる新聞記事を探し、小レポートを執筆する。	180	創造力 規律性
12週 /	最終プレゼンテーションの準備と打ち合わせ(わかりやすいレジユメの作成、情報の信頼度や解決方法の具体性・実現可能性を中心に検討する)。	グループ活動(グループ調査、レジユメの作成、発表の練習など)。	・情報の信頼度に留意してレジユメを作成することが出来る。出典の明記や剽窃がないかという点に留意することが出来る。	(予習・復習)評価のポイントを踏まえたレジユメを作成する。質疑を想定した打ち合わせしておく。	180	実行力
13週 /	グループによるプレゼンテーションの最終発表(1)	グループ発表と質疑応答(コメントシートへの記入を含む)。	・指定された様式にしたがってレジユメを作成し、発表することが出来る。質問に答えることが出来る。 ・各グループの発表に対し、コメントシートに3行以上の感想や疑問などを書くことが出来る。	(予習)プレゼンテーションの準備(内容は12週に準ずる)。 (復習)質疑応答や他の学生からのコメントを踏まえ振り返りを行う。	180	発信力 傾聴力
14週 /	グループによるプレゼンテーションの最終発表(2)	グループ発表と質疑応答(コメントシートへの記入を含む)。	・指定された様式にしたがってレジユメを作成し、発表することが出来る。質問に答えることが出来る。 ・各グループの発表に対し、コメントシートに3行以上の感想や疑問などを書くことが出来る。	(予習)プレゼンテーションの準備(内容は12週に準ずる)。 (復習)質疑応答や他の学生からのコメントを踏まえ振り返りを行う。	180	発信力 傾聴力
15週 /	グループによるプレゼンテーションの最終発表(3)及びこれまでの授業や発表を振り返り、多文化共生社会の一員としてどう行動すれば良いかを考える。	グループ発表と質疑応答(コメントシートへの記入を含む)。これまでの学修・発表の振り返り。	・指定された様式にしたがってレジユメを作成し、発表することが出来る。質問に答えることが出来る。 ・各グループの発表に対し、コメントシートに3行以上の感想や疑問などを書くことが出来る。 ・これまでの学修を踏まえ、「社会がこうなって欲しい」という視点から考えを述べるのではなく、自分がどう行動していくかを述べる事が出来る。	(予習)プレゼンテーションの準備(内容は12週に準ずる)。 (復習)質疑応答や他の学生からのコメントを踏まえ振り返りを行う。これまでの授業や発表で扱った内容あるいは授業では扱われなかったものについてさらに調べ、自らの考えを深める。	180	発信力 傾聴力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

